家庭教育コラム
必見！！家庭教育のススメ
令和５年３月　No.5
高松市教育委員会生涯学習課

絵本は愛の体験です

遠藤　由美　（家庭教育応援講座講師
えんどうまめのおはなし会　主宰
NPO 法人子育てネットひまわり　理事）

えんどうまめのおはなし会では、子どもへの読み聞かせ会や、親子向けの講演会を行っています。講演会では、『絵本は愛の体験です。』（松居友/著 洋泉社）の題名をそのまま使わせてもらっています。著者の松居さんの講演会に参加したとき、松居さんは冒頭に「ゆうやけこやけでひがくれて…」と、歌い出しました。そのとたん、幼い頃その歌を歌いながら家へ帰っていくときの風景が蘇りました。窓に灯りがともり、夕飯の香りが漂い…。家族と暮らしていた頃の懐かしい思い出が胸いっぱいに広がりました。

幼いころ聞いたお話は心に残り続け、自分を応援する力になる

松居さんは上記の著書の中で語っています。「…幼いころに心をこめて語ってもらったお話は、その後も心から消え去ることがありません。それどころか人生の最も重要なときに、心の底でよみがえり、さまざまな考え方を指し示してくれるのです。いやそればかりか語ってくれた人の温かい心が思い出され、少年の心を勇気づけてくれたりもしたのです。」

絵本だけではなく、歌ってもらったわらべうた、「あなたが生まれた時はこうだったよ」の話、家庭には様々な愛の体験が散りばめられています。一緒に作った料理や、外で遊んだ思い出…、それらは困難に負けそうになった時に応援してくれる強い力となります。

「子どもたちは物語を必要としています。たくさんの物語を必要としています。
それは、子どもたちがこれから自分の物語をつくっていかねばならない人たちだからです。」
『おはなしについて』より抜粋（松岡享子/著 東京子ども図書館）

よい物語と出会うことで、子どもたちは

- 主人公となって様々な体験ができる
- 困難はあるが乗り越えられるということを何度も体感できる
- すばらしい仲間たちとの出会いがある
- 上質な笑いを得ることができる
- 多様な生き方に触れ、自己肯定ができる
- 図書館と友だちになれる

のです。

『おなかのすくさんぽ』（片山健/作 福音館書店）を読んでもらっているとき、子どもたちは主人公と同じように、動物たちと水たまりでバッチャンバッチャンし、泥まんじゅうを作り、穴にこもり、洞窟探検をして「ワーオ」と吠え、坂を転げ落ちて川で水浴びをしているのです。そして、大好きな絵本は終わってすぐに「もっかい！」。

物語を語ってくれた、絵本を読んでくれた人の愛は、子どもたちの心の奥底で静かに佇んでいます。そして、本当に必要になったときに大きな力となるのです。